

災害時の支援に向けた、顔の見えるネットワークのために

県央(高鍋町)開催

みやざき災害中間支援連絡会 & 災害中間支援コーディネーター育成研修

【日 時】2026年2月3日(火)14:00~16:10

【会 場】たかしんホール作業室 〒884-0006 高鍋町上江8113

※終了後会場を移動して16:30頃より県災害支援物資拠点施設見学

みやざき災害中間支援連絡会

- ・災害中間支援概要説明 & 被災者支援登録について
- ・参加者紹介 & 情報共有

災害ボランティア支援体制整備事業

災害中間支援コーディネーター育成研修

～災害時に必要となる中間支援とはどんなことなのか？～

講師：鈴木隆太氏（一般社団法人おもやい代表）



Supported by 日本 THE NIPPON
財團 FOUNDATION

災害支援物資拠点施設 見学（希望者）

〒884-0005 高鍋町持田5733 県立農業大学校敷地内

※会場より車で15分程度、現地へは各自で移動をお願いします。



※「災害中間支援」、「講師紹介」、「災害支援物資拠点施設」については裏面参照ください

皆様のご参加お待ちしております！

お申込みは右記 二次元バーコード
もしくはお電話(0985-60-3911)でお願いします。

申込締切：2026年1月27日(火)



【主催・お問合せ】

宮崎県災害中間支援ネットワーク(事務局：NPO法人 宮崎文化本舗)

TEL：0985-60-3911 E-mail：bunka_info@bunkahonpo.or.jp (担当：石田、後藤、名田)

ホームページ：<https://miyasaitai.net/>

本連絡会は、宮崎県災害中間支援ネットワーク（事務局：宮崎文化本舗）が、宮崎県の「災害ボランティア支援体制整備事業」補助金を活用し、宮崎県内における災害時の広域的な支援体制づくりに向けて、県北・県央・県南の3地域において実施するものです。

災害中間支援（組織）とは？

災害中間支援組織とは、被災地で活動する地域団体・NPO・ボランティアと、行政・社会福祉協議会・企業・基金などの支援資源をつなぎ、支援の重複や取りこぼしを防ぐ“調整機能”を担う組織です。

大規模災害では、支援する側と支援を必要とする側の情報が十分に結び付かず、支援が届きにくい、または一部に偏るといった課題が生じてきました。このため、平時から関係機関連携・情報共有・人材育成の体制等のネットワークを整え、発災時には迅速なマッチングや広域的な支援調整を行う仕組みが求められています。

こうした中間支援機能は全国的に整備が進められており、民間団体と行政が役割を分担しながら、災害時の“ハブ”となる体制がつくられつつあります。宮崎県においても同様に、令和7年度から宮崎県災害中間支援ネットワーク（災害中間支援組織）の事務機能を特定非営利活動法人宮崎文化本舗が担い、平時・災害時を通じた支援ネットワークの構築に取り組んでいます。

講師紹介【一般社団法人おもやい代表理事 鈴木 隆太 氏】

鈴木隆太氏（一般社団法人おもやい代表理事）は名古屋市出身。阪神・淡路大震災をきっかけに災害ボランティアに関わり、「被災地 NGO 協働センター」の立ち上げにも参画し、国内外の災害支援に携わってきました。その後も新潟県中越地震や熊本地震などで復興支援に取り組み、地域に寄り添う支援の実践を積み重ねてきました。

令和元年に、「令和元年8月の前線に伴う大雨」で地元・武雄市が被災したことを契機に、市民を中心に「チームおもやい」を立ち上げ、現在は一般社団法人としてボランティアの受け入れや支援活動を行っています。2022年の大雨の際には宮崎県でも延岡市・都城市での支援に携わり、多数の越境支援の現場経験も有しています。

災害支援物資拠点施設とは？

宮崎県では、災害発生時における支援物資の円滑な受け入れ・供給体制の確保を目的として、高鍋町に所在する農業大学校を、災害支援物資の集積・中継拠点の一つとして活用しています。本拠点は、県の地域防災計画等に基づき、県内外から集まる支援物資を一時的に受け入れ、仕分け・保管を行い、被災状況に応じて市町村や関係機関と連携しながら、被災地への円滑な輸送につなげる役割を担います。平時においても、関係機関との連携や運用確認を行うことで、災害時の迅速な初動対応に資する体制づくりが進められています。